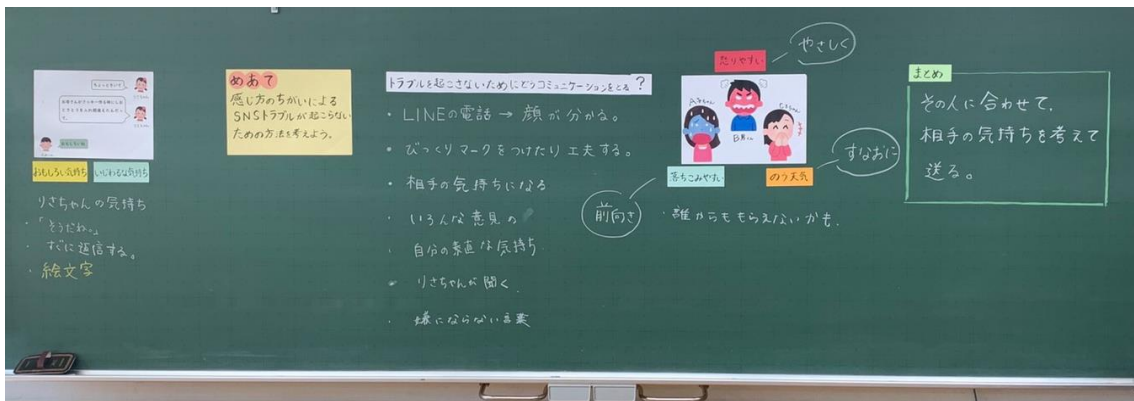



情報モラル教育を通じた教師としての学び —SNSノートながさきを利用して—



ICT活用実践専攻 4年 田邊詩織





年 組 番

年 組 番 名前

 長崎県教育委員会 

小学生の実態について

全国の携帯電話・スマートフォンの所有・利用状況

平成22年～平成29年：20.9%→55.5%
スマートフォン…0%→29.4%（内閣府2019）



より身近に

熊本市の実態

	小学生	中学生
情報端末所持率	77.4%	93.8%
LINE使用率	23.4%	67%
スマートフォン所持率	21.1%	57.5%



中学生になると
SNS・スマートフォンの
利用が急増

SNSが起因となる被害児童

過去5年間で26.8%増加，2095名（警察庁2019）

被害児童の増加を踏まえ

「インターネットトラブル事例集」を公開（総務省2017）
児童に必要な情報活用能力を育てる一助となることねらい

情報モラル教育の現状について

SNSノートながさき

児童の健全育成を図る目的

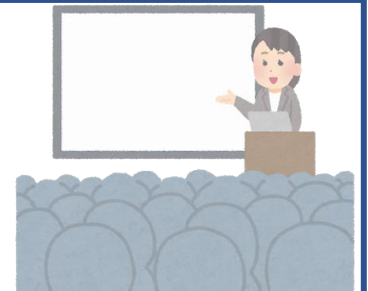
長崎県教育委員会と
LINE株式会社が提携
し、平成31年に作成



- ・ 発達段階に応じた教材
小学生（低学年・中学年・高学年）
中学生・高校生・保護者・教員指導
- ・ カード教材
児童らが話し合いを通じて学ぶ
◎人による認識の違いに気づく
◎当事者意識を持って考えを深める

情報モラル教育を実践するうえでの課題

- ・ 教師の知識不足
- ・ 指導法改善のために教員研修の在り方を検討
→研修を通して学び続ける必要がある 長谷川（2016）



省察（リフレクション）について

指導力のある教師に成長するための重要な要素
「**省察（リフレクション）**」

（中田 2010）

自己リフレクション

◎時間をかけて自分と向き合える
△主観や思い込みによって思考が偏る

対話リフレクション

第3者からの意見を取り入れる
→客観的に捉えた自分を知る

自身の成長に繋がる



本研究の目的

SNSノートながさきを使用した
情報モラル教育の授業実践



児童の学びを評価
自己リフレクションと対話リフレクションを通じた
教師としての学びを言語化する

授業実践について

対象：長崎県小学4年生27名（主免実習で配属された学級）
使用教材：SNSノートながさき「これって悪口」
実施日：2020年2月27日 4時間目



学級の実態

男女仲が良く，元気が良い学級
積極的に発表もでき，温かみのある雰囲気

授業のねらい

子どもたちにSNSを使ったコミュニケーションをとることは普通の会話に比べて難しいということを体験してもらい，将来SNSは必要不可欠であることからどのようにSNSと付き合っていけばいいのかを考える。



授業のめあて

感じ方のちがいによるSNSトラブルが
起こらないための方法を考えよう

授業の流れについて

授業の流れ



【導入】 10分

- ・ LINE会話例を提示
- ◎文章だと感じ方は人それぞれである

【理解する・考える】 15分

- ・ カード教材を使用し,分類する個人作業
- ・ 考えをもとに班活動で意見共有

【議論を共有して深める】 15分

- ・ 学級全体で議論
- ◎新しい教材を提示し,相手によって表現を変えていることを知る。

【まとめ】 5分

- ・ みんなに同じ接し方をしても難しい
- ・ 振り返りシート記入



評価方法

アンケート

- ワークシート...自由記述：カテゴリ分類・集計
SNSトラブルが起きないための方法を考えよう
- 振り返りシート... (全4問) 4件法による回答

肯定回答 (とてもそう思う, ややそう思う)

否定回答 (あまりそう思わない, 全くそう思わない)

直接確率計算

授業を受けての感想...自由記述：カテゴリ分類・集計

会話を抽出

- 全天球カメラ...班活動時の児童の様子や発話, 手元・表情を記録
- ビデオカメラ...教室全体の様子を記録 (前方後方)



省察を通しての学び

- 録画したビデオを視聴する前後それぞれで自己リフレクション
- 座談会形式の対話リフレクション

結果・考察 【アンケート調査（4件法）】

回答数27名のうち有効回答26名

質問項目	肯定回答		否定回答		直接確率計算 (両側検定)
	とても そう思う	やや そう思う	あまり そう思わない	まったく そう思わない	
人によって感じ方や捉え方が違う	17	7	1	1	* *
文章だけでは自分の思っていることが 伝わりづらい	12	11	2	1	* *
自分の考えを発表することができた	15	9	1	1	* *
トラブルが起きないためには どうすれば良いか考えることができた	18	8	0	0	* *

** : p < .01,

肯定的な回答が多いことから授業のねらいを達成できていた

「人によって感じ方や捉え方が違う」全くそう思わないに回答児童H

児童Hは班活動中の出来事を評価していた

→児童Hは話し合いを重ねた結果意見が合致したため否定回答

反省点

児童によって回答する場面や尺度が異なることを配慮したうえで
より具体的なアンケートにすべきだった

結果・考察 【ワークシート・カテゴリ分類】

感じ方のちがいによるSNSトラブルが起きないための方法に関する自由記述

カテゴリ名	回答数	自由記述回答例
相手の立場になって考える	18	・ <u>相手の方が</u> どういうふう <u>に受け取るのか</u> を考えて送る。
文章表現の工夫	8	・ その文をもっと <u>くわしく</u> する。 ・ 返信で色々な気持ちが出てくる話題は書かないようにする。
絵文字利用の工夫	6	・ 相手に伝わりやすいような文字と <u>絵文字</u> にする。 ・ エモジを使うのもいいけど文の間にエモジをいれてもいいと思う。
直接話す	6	・ LINEの電話の動画ばんで話し合う。 ・ <u>テレビ電話</u> で話す。
悪口を言わない	3	・ かげ口を送らない。
自分の気持ちを素直に伝える	3	・ 自分はこう感じていると <u>すなおに</u> 伝える。

結果・考察 【ワークシート・カテゴリ分類】

感じ方のちがいによるSNSトラブルが起きないための方法に関する自由記述

カテゴリ名	回答数	自由記述回答例
相手の立場になって考える	18	・ <u>相手の方が</u> どういうふうに受け取るのかを考えて送る。
文章表現の工夫	8	・ その文をもっと <u>くわしく</u> する。 ・ 返信で色々な気持ちが出てくる話題は書かないようにする。
絵文字利用の工夫	6	・ 相手に伝わりやすいような文字と <u>絵文字</u> にする。 ・ エモジを使うのもいいけど文の間にエモジをいれてもいいと思う。
直接話す	6	・ LINEの電話の動画ばんで話し合う。 ・ <u>テレビ電話</u> で話す。
悪口を言わない	3	・ かげ口を送らない。
自分の気持ちを素直に伝える	3	・ 自分はこう感じていると <u>すなお</u> に伝える。

相手の気持ちになってLINEする
その人に合ったコミュニケーションをとるといった回答が多い
→授業のねらいを理解できていた可能性

結果・考察 【ワークシート・カテゴリ分類】

感じ方のちがいによるSNSトラブルが起きないための方法に関する自由記述

カテゴリ名	回答数	自由記述回答例
相手の立場になって考える	18	・ <u>相手の方が</u> どういうふう <u>に受け取るのか</u> を考えて送る。
文章表現の工夫	8	・ その文をもっと <u>くわしく</u> する。 ・ 返信で色々な気持ちが出てくる話題は書かないようにする。
絵文字利用の工夫	6	・ 相手に伝わりやすいような文字と <u>絵文字</u> にする。 ・ エモジを使うのもいいけど文の間にエモジをいれてもいいと思う。
直接話す	6	・ LINEの電話の動画ばんで話し合う。 ・ <u>テレビ電話</u> で話す。
悪口を言わない	3	・ かげ口を送らない。
自分の気持ちを素直に伝える	3	・ 自分はこう感じていると <u>すなおに</u> 伝える。

「工夫」 = 相手への思いやり
誤解を生まないようにする気遣い



結果・考察 【ワークシート・カテゴリ分類】

感じ方のちがいによるSNSトラブルが起きないための方法に関する自由記述

カテゴリ名	回答数	自由記述回答例
相手の立場になって考える	18	・ <u>相手の方が</u> どういうふう <u>に受け取るのか</u> を考えて送る。
文章表現の工夫	8	・ その文をもっと <u>くわしく</u> する。 ・ 返信で色々な気持ちが出てくる話題は書かないようにする。
絵文字利用の工夫	6	・ 相手に伝わりやすいような文字と <u>絵文字</u> にする。 ・ エモジを使うのもいいけど文の間にエモジをいれてもいいと思う。
直接話す	6	・ LINEの電話の動画ばんで話し合う。 ・ <u>テレビ電話</u> で話す。
手立て・方法	3	・ かげ口を送らない。
	3	・ 自分はこう感じていると <u>すなおに</u> 伝える。

「工夫」 = 相手への思いやり
誤解を生まないようにする気遣い



結果・考察 【授業の感想・カテゴリ分類】

授業を受けて思ったことや考えたことに関する自由記述

カテゴリ名	回答数	自由記述回答例
他者への気遣いへの気づき	11	<ul style="list-style-type: none">・これからはその人に合わせて相手の気持ちを考えて会話などをしたいと思いました.・私は人のことを考えながら送っていなかったの次から気持ちを考えて送りたい.
SNSの必要性の理解	3	<ul style="list-style-type: none">・SNSとかLINEも必要だと思った.・メールのことを深く考えることができました
授業の類似	2	<ul style="list-style-type: none">・今日うけた授業は前に学んだことがある(にたじゅぎょう)
SNSは使用しない	1	<ul style="list-style-type: none">・あまりSNSは使わないでちょくせつあって、話したりした方がいいと思った.
新たな学びへの意欲	1	<ul style="list-style-type: none">・ラインは使ってないけど会話などでも使うのもっと学びたい.

結果・考察 【授業の感想・カテゴリ分類】

授業を受けて思ったことや考えたことに関する自由記述

カテゴリ名	回答数	自由記述回答例
他者への気遣いへの気づき	11	<ul style="list-style-type: none">・これからはその人に合わせて相手の気持ちを考えて会話などをしたいと思いました.・私は人のことを考えながら送っていなかったの次から気持ちを考えて送りたい.
SNSの必要性の理解	3	<ul style="list-style-type: none">・SNSとかLINEも必要だと思った.・メールのことを深く考えることができました
授業の類似	2	<ul style="list-style-type: none">・今日うけた授業は前に学んだことがある(にたじゅぎょう)
SNSは使用しない	1	<ul style="list-style-type: none">・あまりSNSは使わないでちょくせつあって、話したりした方がいいと思った.
新たな学びへの意欲	1	<ul style="list-style-type: none">・ラインは使ってないけど会話などでも使うのもっと学びたい.

今後スマホを使い始める際にこういった行動をとるか、授業を受ける前後で、意識の変化がみられるような回答

結果・考察 【授業の感想・カテゴリ分類】

授業のねらいを達成できたからこそ、他者への気遣いという考えが生まれた

思ったことや考えたことに関する自由記述

回答数

自由記述回答例

他者への気遣いへの気づき	11	<ul style="list-style-type: none">・これからはその人に合わせて相手の気持ちを考えて会話などをしたいと思いました。・私は人のことを考えながら送っていなかったの次から気持ちを考えて送りたい。
SNSの必要性の理解	3	<ul style="list-style-type: none">・SNSとかLINEも必要だと思った。・メールのことを深く考えることができました
授業の類似	2	<ul style="list-style-type: none">・今日うけた授業は前に学んだことがある（にたじゅぎょう）
SNSは使用しない	1	<ul style="list-style-type: none">・あまりSNSは使わないでちょくせつあって、話したりした方がいいと思った。
新たな学びへの意欲	1	<ul style="list-style-type: none">・ラインは使ってないけど会話などでも使うのもっと学びたい。

今後スマホを使い始める際にこういった行動をとるか、授業を受ける前後で、意識の変化がみられるような回答

自己リフレクションを通じた学び



動画視聴前

- ◎児童らが発言するときに自然としゃがんで目線を合わせるといことが無意識にできた
- △児童の反応によって理解できてないと解釈し焦って話過ぎてしまった

動画視聴後（筆者に関する気づき）

- ◎机間指導の時に取り上げたい児童をメモし、全体議論で発表をするように促すことができた→議論が深まり感じ方の違いを再び強調できた
- △発問の曖昧さから授業の軸がずれてしまった
→授業終了5分前に教材を出したことによる焦りが見受けられた

動画視聴後（児童に関する気づき）

- ◎カード教材を使用する際に主体的に取り組めていた
- △児童の考えと筆者の要約がずれてしまった
→ビデオを観ないと気づけていなかったということについてさらに検討が必要

具体的なエピソード

児童の意見を要約する場面

発話者	発話内容 (行動) <補足説明>
児童E	私的には、私は結構メールとかはよく考えて送る方なんですけど、面白いねって言われたけど、そうかな～って思うときがある時は、そう、速攻にすぐに素直にそうかなって送ります。
授業者	(頷いて) おお～すぐに返信する (黒板に書く)

考察

児童E：素直に自分の考えた反応を返す

筆者：すぐに返信する

児童Eが言いたかったことを要約できていない

- 本来児童の発表の様子を見ながら聞くことが望ましい
→児童に意識を向けながら正確な板書を書く方法を検討
- 要約の違いに気づいたのは動画を観たからこそその気づき
→動画を観なければ気付けていないどうすれば気付けるのか



対話リフレクションを通じた学び

教材

- ・教材が小さかったことについて
- ・SNSノートながさきについて

筆者

- ・筆者のしぐさについて
- ・共感について

授業

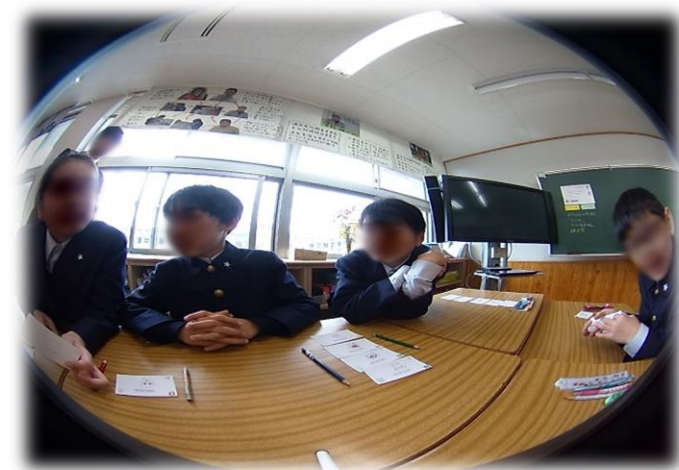
- ・授業の流れを忘れてしまったことについて
- ・残り5分で教材を出した意図について
- ・授業最後のまとめについて

その他

- ・班ごとの活動の様子について
- ・人によって態度を変えることについて



省察会の様子



班活動の様子

対話リフレクションを通じた学び

教材

- ・教材が小さかったことについて
- ・SNSノートながさきについて

筆者

- ・筆者のしぐさについて
- ・共感について

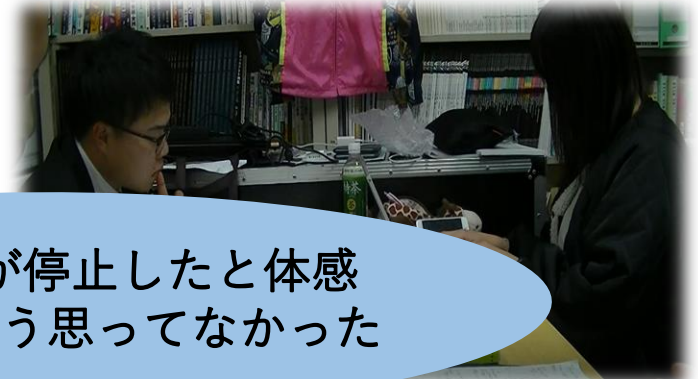
筆者は授業が停止したと体感
→周りはそう思ってなかった

授業

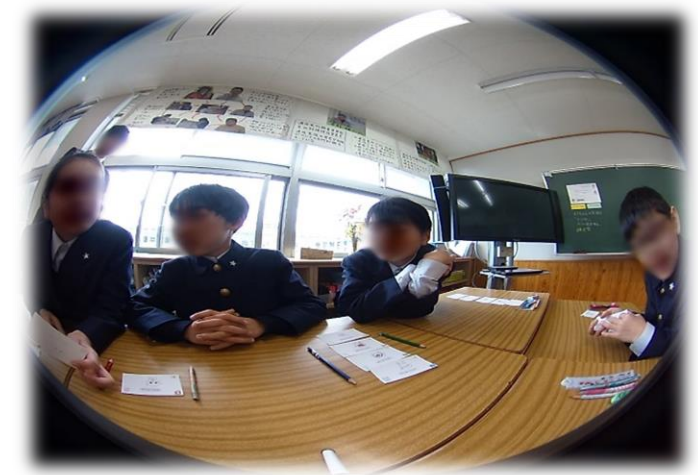
- ・授業の流れを忘れてしまったことについて
- ・残り5分で教材を出した意図について
- ・授業最後のまとめについて

その他

- ・班ごとの活動の様子について
- ・人によって態度を変えることについて



省察会の様子



班活動の様子

まとめ

目的

- ・ 情報モラル教育の授業実践を通じた児童の学びを評価
- ・ 自己リフレクションと対話リフレクションを通じた教師としての学びを言語化する

結果・考察

- ・ 児童らはSNSのトラブル回避について思考・共有することで、相手の立場になって考えることができた
- ・ リフレクションを通してこれまでに気付くことができなかった授業中の立ち振る舞いや言動を確認できた
- ・ 対話リフレクションは、客観的にみた自分自身について気付くチャンスでもあり、いい機会であった

今後の課題

本実践から得られた知見を筆者の成長に繋げるとともに
4月からの教員生活に活かすこと

